



2019年8月9日 第143号
北九州労健連ニュース

TEL 093-871-0449 FAX 093-872-3695

〒804-0094 北九州市戸畑区天神 1-13-13 シェルム天神 1F

北九州労働者
の健康問題連
絡会議 発行

<http://rokenren.com/>

8月4日(日)9時から、17時の予定でウエル戸畑12階会議室において、北九州労健連主催「市民アスベスト観察トレーナ養成講座」を開催しました。

講座内容

1. 屋外実習「周辺スレート建物の視察とマッピング」
2. 「アスベストのリスクについて」
3. 「アスベスト建材の見分け方」
4. 観察実習「新偏光観察法」
5. 井堀ナフコ解体事例の紹介

この企画は、昨年の定期総会で提唱された「労健連版「アスベスト環境オンブズパーソン」育成の実践

として、取り組みました。様々な資料（アスベスト防塵マスク着用法の実習を含め）や、プレパラートの作成、「偏光板を用いた簡易観測法」による観察など、盛りだくさんの講座でした。本企画には専門機関として東京労働安全衛生センターの協力のもと行なわれました。

////////////////////////////////////

屋外マッピング調査について

真夏の朝イチで、戸畑駅北側の住宅地及び工場



街を約1時間、各自が地域地図を持ち、アスベストが使用されていると思われる工場や住宅の

マッピング調査を行いました。先生から工場の波板スレートの破損した部分が毛羽立っているところを示され、これが「アスベスト」と言われ、初めて認識しました。一般家庭の屋根スレートも一見してアスベストが使われているのではと指摘されて、どこにでもアスベストがあると再認識させられました。

感想(50代、医療)身近にこれだけアスベスト、波板スレートがあり、工場だけではなく、屋内・天井等で使われている事に驚かされました。

////////////////////////////////////

開講あいさつ

永野労健連議長

この講座を全国で初めて北九州で開催すること



8/4「市民アスベスト観察トレーナ養成講座」開催！

が出来るという事で、本当に楽しみにしておりました。先ほど住宅街・工場街を实际歩いて見て、どこでもアスベストが使われているという状況も見ました。北九州労健連のアスベスト対策ということでは、これまで市と要請懇談を行い、2019年3月末北九州市はアスベストアナライザーを購入しました。このような取り組みの中、北九州市環境局とも信頼関係が構築出来ています。今、街の中では至るところで解体工事が進められています。解体工事現場を見て、工事看板の有り無しを含めておかしいなと思った時は、市に通報し、調査をお願いしています。現場で働いている人は、施主から安く壊さなければならぬと何にも知らされずに、無防備に仕事をしている現状があります。本日の講座で、アスベストの危険性を含めて私たちの見目を

養う事が出来ることを嬉しく思っています。3人の先生方の講義を聞いて、有意義な一日にしたいと思います」

////////////////////////////////////

座学①「アスベストのリスク、対策」

講師：東京労働安全センター 外山尚紀氏



アスベスト関係写真集と言える資料をもとに、成分よりも形態が発がんをおこすとして、

どういった場所にどういう形態で存在しているか分かり易く解説されました。クボタショック以降広く知られるようになったアスベスト被害の深刻さ。イギリスの輸入量の倍近い量を輸入して今起こっている被害は想像もつかない患者がこれから出るのではないかと懸念が報告されました。

感想(30代、医療)アスベストの性質から被害の実態を詳しく知ることが出来ました。特に今後被害が広がってくることをデータで分かり易く示してもらって勉強になりました。

////////////////////////////////////

座学②「災害とアスベストリスク」

講師：熊本学園大学 中地重晴先生



「震度7の地震は今まで何回あったか知っていますか？」と問いかけられ、最近の地震

での被害状況やアスベストの環境汚染の問題、熊本学園大学で実際に行われた建て替え時のアスベスト対策等について詳しく解説していただきました。

感想(20代、建設) 災害現場の実情がよくわかりました。改修・解体工事の設計図書も注意しないとイケないと思いました。

////////////////////////////////////

座学③「アスベスト建材の見分け方を知る」

講師：東京労働安全センター 外山尚紀氏

石綿含有製品は、吹付材(レベル1)、断熱材・保温材・耐火被覆板など(レベル2)、成形板等に分類される。レベル3にあたるスレート板、押出成形セメント板、窯業系サイディングのセメント系建材が石綿含有製品としては最も多く、大半を占めるが、規制が弱く、飛散防止対策が十分にとられず重機などで粉碎されている事が報告されました。この資料もまさに写真集として分かり易い内容でした。

感想(40代、医療)写真が多くあり、クリソタイル、アモサイト、クロシドライトを初め、どんなものに使われているか等を知ることが出来た。

////////////////////////////////////

新偏光観察法(偏光板キットと簡易顕微鏡を使って) 実習

講師：愛知教育大学 榊原洋子先生
午後の時間は、従来のアスベスト観察法としての偏光顕微鏡(電子顕微鏡)は、機器の取り扱いに経験と高度な技術が必要でしたが、榊原先生



がもっと簡単で安価で、だれでも使える観察方法で、現場でアスベストの確認をしたいという

ことで、偏光板を使ったアスベスト判定キット(特許取得)を考案され、講座参加者全員分の判定キットで、いろんな材料(アスベスト～羊毛、アクリル等)を実際に見て学習しました。

感想(20代、建設) アスベストと他の繊維では光り方などまるで違うことが分かりました。目に見えなかったアスベストが偏光板2枚を通すことで判定できることはすごいと思います。

////////////////////////////////////

全体を通しての感想(30代、医療)

町を歩く時に廻りを気にしてみようと思いました。アスベストは終わったことだという認識が世間にあると思います。それを変えていくため、少しでも力になりたいと思いました。

全国 JR 会社を とりまく特徴



国鉄労働組合北九州地区本部

畠山 岳士

昨年は大阪北部地震、西日本豪雨、度重なる台風、そして北海道東部地震などの自然災害が多発し甚大な被害をもたらした。今後も大規模災害が発生することを想定した安全対策や利用者・社員の命を守る改善策を求めることが重要となっている。

2016年11月に「JR単独では維持が困難な路線」を公表した**JR北海道**は、国を巻き込み関係自治体との協議が続いているが、国交省は昨年7月27日に支援策と監督命令からなる「JR北海道の経営改善について」を発表した。

中身としては財政支援と引き換えに徹底したコスト削減と意識改革などがあげられ厳しいものとなっている。また関係自治体において、すでにバス転換に応じるなどの動きも出ている。

今年4月9日昨年の財政支援、国交省からの監督命令を受けて、長期ビジョンと中間計画を発表した。また、単独で維持できないことを明らかにした8線区についても、沿線自治体の協力を得ながら進めるアクションプランもまとめた。長期ビジョンは北海道新幹線の札幌延伸を見据えたグループでの黒字確保をめざし、その前提として運賃値上げや快速エアポートの増便などによる中期計画での収支改善をめざすとしている。すでに、10月1日からの運賃値上げについて国交省に認可申請した。初乗りは30円値上がり200円、普通運賃の改定率は平均15.7%になり、年間約40億円の増収を見込んでいる。また、国や地元自治体から収支均衡にむけて280億円規模の財政支援が必要になることも明らかにしている。

JR東日本は、東日本大震災から依然として不通が続くJR常磐線の富岡～浪江間(20.8km)について年内にも復旧工事を終了し試験運転の開始をめざし、2019年度内全線の運転再開に向けた見通しを明らかにしている。JR常磐線の運休区間では、小高～原ノ町駅間(9.4km)が2016年春、浪江～小高駅間(8.9km)が2017年3月に復旧し、竜田～富岡駅間(6.9km)が2017年10月に運転再開するなど、全線復旧に向け、帰宅困難区域を含む区間の除染が終了し線路の敷設も終了し東日本大震災から9年の歳月を経てJR常磐線は全線で復旧することになる。

山陽新幹線「のぞみ」で異臭、異音が確認されながらも、原因の究明もなく3時間以上走行し、あわや脱線・転覆の危険性が指摘され、新幹線開業以降初となる重大インシデントに指定された問題について、運輸安全委員会は3月28日「JR西日本では終着駅で点検することが恒常化している」と問題視し、運行していたJR西日本側で重大事故にならないと無意識に思い込む心理作用が影響し、早期把握できなかった可能性を指摘する報告書を発表した。

JR四国と高知県は4月25日赤字路線の維持に向け、県内の鉄道ネットワークのあり方を協議するための懇談会を発足させた。これまで四国4県で3回の懇談会が開催されてきたが、初めて単独の県との間で議論が行われた。3月23日には、JR北海道に続きJR四国の路線別の収支状況も明らかにされ全20線区のうち本州と四国を結ぶ本四備讃線(瀬戸大橋線)を除く19線区が赤字となり、改めて厳しい経営状況が浮き彫りになっている。

JR発足から32年JR四国は鉄道事業で黒字になったことはなく、国の支援措置などで最終損益は辛うじて黒字を維持しているが「平成30年7月豪雨」に示されるような自然災害のリスクや人口減少社会など、経営を脅かす不安要素となっており、JR・沿線自治体との懇談会は、公

共輸送機関のあり方を問うものになってくる。

2017年7月の九州豪雨で被災し、一部区間で不通が続く**日田彦山線**の復旧について、JR九州と沿線自治体のトップが協議する「復旧会議」が4月23日に開催され、青柳社長は、鉄道で復旧する以外にバス高速システム（BRT）や通常のバス路線での復旧について「自治体財政的な支援なしには難しいと判断し、鉄道での復旧は事実上難しい」との認識を示している。JR九州はこれまで、不通区間の赤字について「鉄道で復旧するには自治体が赤字削減への協力が

必要」とし、調整は難航している。BRTでの復旧では、鉄道との所要時間はほぼ変わらず、費用も2割弱ですむことから、自治体からの財政支援は求めないことも表明している。

上記のように分割・民営化の矛盾が、地域住民の足を奪いJR各社における賃金・労働条件の格差を生み出す根本的な問題ともなっているだけに、分割・民営化によって生じた構造矛盾の解決に向けて、関係省庁への要請行動をはじめとし「政策提言」の到達点と課題を明確にした運動の強化が求められている。

KKR 札幌医セン看護師過労死事件、病院を提訴へ

国家公務員共済組合（KKR）札幌医療センターの看護師、杉本綾さんの過労自死（2012年12月、当時23歳）が昨年10月に労災認定されました。その後、遺族と弁護士は病院を運営するKKRに対し、謝罪と再発防止策、使用者としての安全配慮義務違反を問い、損害賠償を求めていました。

しかし、KKRは「安全配慮義務違反はない」と回答。その根拠を照会すると、「長時間労働の事実はない」「タイムカードの記載時間は出退勤の時間で、始業・終業時間ではない」「シャドーワークは労働時間とは認められず労働時間には該当しない」「綾さんがうつ病に罹患していた根拠はない」などと、労働基準監督署が労災認定の根拠とした事項を否定しました。

遺族と弁護士はKKRの責任を明らかにするため、7月29日に札幌地裁に損害賠償を請求する民事訴訟を提起しました。「新卒看護師の過労死裁判を支援する会」では、全国に向けてさらなる支援を呼びかけています。このたたかいは、二度と医療従事者の過労死・過労自死を生まないために、医療現場の過酷な労働環境を改善させる重要な意義があります。全国の医療労働者に問われている問題であり、支援の輪を大きく広げたいものです。

【問い合わせ連絡先】

北海道医労連書記局（担当・奥田さん）
札幌市東区北9条東1丁目労働センター1階、
電話 011 (721) 6178、FAX 011 (723) 0791

＜KKR 札幌医セン看護師過労死事件とは＞

2012年春、KKR札幌医センに新卒採用された杉本綾さんが、8ヵ月間にわたり最大91時間の時間外労働を課され、うつ病を発症したのち、同年12月に自死した事件です。病院は時間外労働手当も支給しておらず、持ち帰り残業の存在も明らかになっています。

しかし、札幌東労働基準監督署は母親の労災申請に対し不支給を決定。その後の審査請求や再審査請求も棄却されたため、2016年12月に労災認定を求める行政訴訟が起こされました。全国に支援の輪が広がる中で、2018年10月26日、札幌東労基署は不支給処分を取り消し、支給処分を決定。綾さんの労災が認定されました。※本記事は、「支援する会」ニュースなどを参考にして作成しました。

健和会労働組合
安達靖史

